

フィデリティの米国株式投資展望 ～足元の大きな変動を受けて～

フィデリティ投信株式会社



当資料のポイント

- 足元の米国株式は極めて不安定で、史上稀に見る変動を記録。
- 今年の企業利益は当面、下押し圧力を受けるが、危機対応として経済対策や金融政策が相次いで打ち出されている。
- 感染の拡大が抑制されれば、実体経済の回復や成長性を織り込む展開が想定される。

新型コロナウイルスへの懸念が広がり、先行きへの不透明感が強まり、投資家のセンチメントは神経質になっています。政府や金融当局は緊急対策を打ち出していますが、米国株式は極めて不安定です。本資料では、足元の状況ならびに今後の投資戦略についてご案内します。

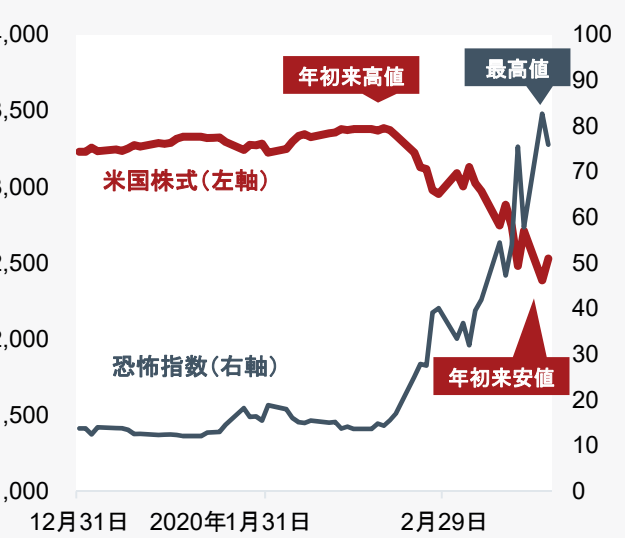


足元の米国株式は極めて不安定

長期の米国株式と恐怖指数の推移



年初来の米国株式と恐怖指数の推移



(注) Refinitivよりフィデリティ投信作成。米国株式はS&P500種指数、恐怖指数はVIX、米ドルベース。左グラフの期間は1990年1月2日～2020年3月17日。右グラフの期間は2019年12月31日～2020年3月17日。

- 米国株式市場は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への警戒や実体経済への影響が懸念されるなか、極めて不安定な動きとなりました。
- 米連邦準備制度理事会 (FRB) はゼロ金利政策や量的緩和、企業への資金供給など、異例の危機対応を打ち出しました。政府は1兆米ドル規模の経済対策を検討していることを発表しました。
- 米国株式は大きく乱高下する展開となり、恐怖指数と呼ばれ変動性を示すVIX指数は急伸し、一時、リーマン・ショック時を上回る水準となりました。右の表の通り、下落率は史上稀に見る大きさとなり、市場の狼狽ぶりが反映されました。

米国株式の前日比下落率の歴代上位

日付	前日比	局面
1987年10月19日	-20.5%	ブラックマンデー
2020年3月16日	-12.0%	コロナショック
2020年3月12日	-9.5%	コロナショック
2008年10月15日	-9.0%	リーマン・ショック
2008年12月1日	-8.9%	リーマン・ショック

(注) Refinitivよりフィデリティ投信作成。S&P500種指数、米ドルベース。期間1963年12月末～2020年3月17日。

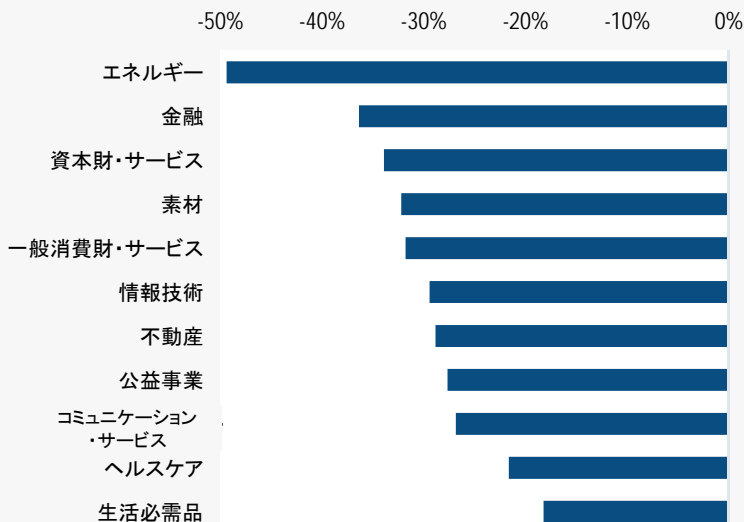
フィデリティの米国株式投資展望 ～足元の大きな変動を受けて～

フィデリティ投信株式会社



リスク回避や狼狽売りが広がり、全面安の展開

業種別の年初来の高値から安値への下落率

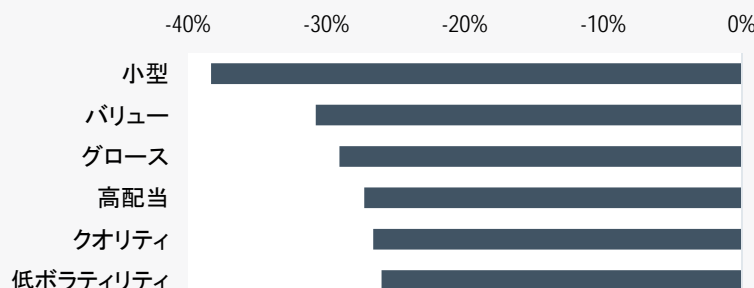


- 今年の高値から直近安値までの動きを業種別にみると、全面安となりました。特に、エネルギーや金融など、景気に敏感な業種が大きく下落しました。新型コロナウイルスによる実体経済や企業利益への影響が懸念されるなか、景気に大きく左右される業種は大きく売られる展開となりました。
- 一方、生活必需品などのディフェンシブとされる業種は相対的に小さな下落にとどまりました。ヘルスケアやコミュニケーション・サービスなどは景気に大きく頼らない自律的な成長性への期待が下落をやわらげました。

(注) Refinitivよりフィデリティ投信作成。期間は2020年2月19日～2020年3月16日。S&P500種指数の業種別指数、米ドルベース。

- 主要スタイル別でも全面安となり、特に、小型やバリュウの下落が大きかった一方、低ボラティリティやクオリティの下落は相対的にやや抑制されました。
- リスクオフ局面では小型に逆風となることが多く、バリュウにはエネルギーや金融などの業種が多く含まれることが重石となりました。株価の変動性が相対的に小さい低ボラティリティ、利益率や財務健全性が高いクオリティは比較的にやや優位でした。

主要スタイル別の年初来の高値から安値への下落率



(注) Refinitivよりフィデリティ投信作成。期間は2020年2月19日～2020年3月16日。MSCI米国株インデックスのスタイル・ファクター別指数、米ドルベース。



今後の見通し: 当面は慎重だが中長期的な成長に着目

- 新型コロナウイルス感染について、2019年12月に1例目が報告されて以来、中国で先に感染が広がりました。しかし、2月下旬以降、中国での新たな感染者は減少傾向にあるとWHOは報告しており、中国は最悪期を脱しつつあります。中国の工場の稼働は徐々に正常化へ向かっている模様です。
- 米国もいずれ感染の拡大が抑制されてくると期待されますが、その時期を見通すことは困難です。今年の企業利益については、当面、下押し圧力を受けることとなります。しかし、米国の中長期的な成長力は高く、2021年以降の企業利益については、成長基調へ回帰すると見通しています。
- 当面の米国株式市場は不安定な動きが続くことが想定されますが、感染の拡大が抑制されれば、株式市場は実体経済の回復や中長期的な成長性を織り込む形で推移することが展望されます。

(注) 当資料作成時点の見方です。今後予告なく変更されることがあります。

上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。最終ページを必ずご確認ください。

フィデリティの米国株式投資展望 ～足元の大きな変動を受けて～

フィデリティ投信株式会社



■ ご注意点

- 当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
 - 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
 - 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
 - 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りします。
 - 投資信託のお申し込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
 - 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。
 - 販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
 - 投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。
 - 投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面を良くご覧下さい。
 - 投資信託説明書(目論見書)については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、販売会社につきましては以下のホームページ(<https://www.fidelity.co.jp/fiji/>)をご参照ください。
 - ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。
 - ・申込時に直接ご負担いただく費用: 申込手数料 上限 4.40%(消費税等相当額抜き4.0%)
 - ・換金時に直接ご負担いただく費用: 信託財産留保金 上限 1%
 - ・投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用: 信託報酬 上限 年率2.123%(消費税等相当額抜き1.93%)
 - ・その他費用: 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。
- ※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。ファンドに係る費用・税金の詳細については、各ファンドの投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。

ご注意) 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、フィデリティ投信が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しておりますが、当資料作成以降において変更となる場合があります。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

フィデリティ投信株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第388号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

IM200318-2 CSIS200319-6